研究科の概要

【課程名称】医療･福祉マネジメント研究科　医療･福祉マネジメント専攻　修士課程　【標準修業年限】２年
【授与学位】修士（医療・福祉マネジメント）Master of Health and Social Services Management　【入学定員】30名

研究科長 ご挨拶

医療･福祉マネジメント研究科　研究科長　末盛 慶

医療･福祉マネジメント研究科が大きく生まれ変わりました！

本研究科は開設15年を経て､このたび大きく3点の改革を行い新しく生まれ変わりました。

1点目に､医療･福祉･介護現場での課題解決を担う専門職の養成に主眼をおいた新カリキュラムをスタートさせ､幅広い専門知識とマネジメント能力の獲得が可能となりました。充実した講義に加え､ケースメソッドやスーパービジョンを行う演習系の学びも幅広く展開しています。

2点目に､修士論文に加えリサーチペーパーを本格的に導入し､現場の問題解決への志向をお持ちの方にとって学びのチャンスが大きく広がりました。リサーチペーパー､修士論文のいずれを選択しても､修士（医療・福祉マネジメント）の学位が取得可能です。

3点目に､長期履修や早期修了などの多様な学び方を整備しました。ライフスタイルに応じて､3年間での修了をめざすことや､優れた研究業績が認められた場合は､1年での修了も可能となります。

医療･福祉･介護現場は現在多くの課題を抱えています。研究の世界に自分の身を置くことによって､新しい知にふれることができ､かつ自身もその新しい知の生産にたずさわることができます。研究とは、現状を何とか改善したいという未来への願いが基となった行為です。そして､あなたの研究を必要としている方がこの社会には必ず存在しています。

新しく生まれ変わった本研究科に学びを深める方々が1人でも多く集い､明日の医療・福祉現場を担う高度専門職業人が輩出されることを心より願っています。

研究科の特徴

優れたマネジメント能力の獲得を目指す

保健･医療･福祉分野のサービスマネジメントについて幅広く学びます。多職種連携教育を通じて､複雑化･深刻化する問題に対応するために専門職あるいは管理者に要求されるコミュニケーション能力､プレゼンテーション能力､ファシリテーション能力を修得します。

学位取得に向けた充実した指導体制

演習科目等を通じて､論文指導担当教員以外の複数の教員からも研究指導を受けられる体制が整備されていることが本研究科の大きな魅力のひとつです。これは他の大学院ではあまり見られないもので､自由で開放的な指導環境のもと､院生が学位取得に向けて質の高い研究活動を行えるよう全力で支援します。

現場で実践する人々とつながり、学外の研究機関とともに知を開く

高度専門職業人のモデルとなる修了生を中心とした｢実務家教員｣に､実践から学ぶ教育に携わっていただいています。また､学外の研究機関との連携を大学院教育にも還元しています。

※2024年6月に､本学は国立長寿医療研究センターと連携及び研究に関する協定書を締結しました。

教員紹介

※今後変更になる場合があります。

浅井 友詞 教授
研究テーマ
企業･医療･介護現場における健康増進､姿勢コントロールに関する研究､前庭機能に関する研究

新谷 司 教授
研究テーマ
医療･福祉事業を中心とする営利･非営利組織の財務会計･経営分析

大谷 京子 教授
研究テーマ
ソーシャルワーカーの専門性およびソーシャルワーク実践方法論

角崎 洋平 教授
研究テーマ
低所得者世帯を対象とした社会福祉政策の現状分析､社会福祉政策の歴史､社会福祉政策の規範理論研究

川島ゆり子 教授
研究テーマ
地域福祉､コミュニティソーシャルワーク､地域福祉計画評価､社会福祉協議会､ボランティア活動

末盛 慶 教授
研究テーマ
ジェンダー･家族･仕事･社会福祉と社会構造に関する社会学

中島 民恵子 教授
研究テーマ
認知症ケア､要支援者や介護者が人間関係や地域社会から排除されない暮らしの支援

水谷 なおみ 教授
研究テーマ
障害者の就労支援施策･事業に関する研究､介護実践･介護観形成プロセスの研究

山口 みほ 准教授
研究テーマ
医療ソーシャルワーク､嗜癖問題（薬物依存症者と家族の支援を中心に）､スーパービジョン

横山 由香里 准教授
研究テーマ
保健･医療･福祉実践の評価研究

李 忻 教授
研究テーマ
医療福祉制度･政策の理論研究及び実践研究

綿　祐二 教授
研究テーマ
福祉施設経営における専門職養成･人材育成と施設管理